

平成24年度「基礎・基本」定着状況調査について

6月12日（火）に、公立中学校2年生を対象として、広島県内一斉に「基礎・基本」定着状況調査が行われました。内容は、国語・数学・英語の3教科と、生活と学習に関する意識・実態の調査です。このほど、その調査結果が発表されましたので、国語・数学・英語の3教科についてご報告いたします。

各教科の平均通過率（％）

	国語	数学	英語	3教科合計
広島県	81.0	74.1	74.2	229.3
広島市	78.5	71.9	72.2	222.6
安佐北中学校	91.1	94.2	93.9	279.2

本校の結果分析と今後の取組

国語

【分析】

小学校で履修する漢字の読み書きの力の定着状況は、本校生徒はほぼ100%に近い通過率を示しています。入学以来、漢字小テストを毎週実施し、漢字練習を自主的に日々継続する習慣をつけさせていることの成果の現れと思います。たくさんの漢字を知り、使える言葉を増やすことは、国語の学習だけでなく他の教科の理解力アップや日常生活で、他者とやりとりをする際の基本的な力になるものです。

また、「読むこと」の領域において、登場人物の心情を把握したり、文脈の流れをつかんで内容を理解する発問での通過率が高い結果を出しています。本校は読書に親しむ習慣のある生徒が多く、登場人物の心理等を想像しながら文学的文章を読むことを日頃から楽しんでいることがよい結果につながっていると思われます。

一方、「言語」の領域において、文脈の前後を読み取って適切な語句（副詞）を選択する問題や、小学校で学習した主語・述語の関係についての問いの通過率がやや低い点が課題として挙げられます。ただ単に暗記するだけの語彙力ではなく、言葉を「理解して使う」「意識して使う」言語の力が、今まさに現代の子どもたちに問われているものと考えます。

【今後の取組】

- ・漢字や語句の意味を暗記するだけでなく、それを応用して日常生活の会話や授業、文章作成の際に失敗を恐れず使うように啓発します。
- ・文章を「書くこと」「読むこと」に対して抵抗感のある生徒が少ないように見受けられるので、引き続き長文読解を楽しんだり、親しみながら相互の意見交流の時間を必ず確保する授業展開をおこないます。
- ・語彙力を広げることは、すべての教科や他者とのコミュニケーションの基盤を成すものであることを見据え、国語の授業で基礎基本的な「言語能力」を育成する学習活動を工夫します。具体的には引き続き、日々の漢字練習帳・意味調べワークシート・授業ノート作り等の指導を通して、授業の中で教師と生徒との「ことば」によるコミュニケーションの活性化を継続します。

数 学

【分析】

「数と式」の領域はの通過率が95.2%で、基本的な計算の能力は身につけてきていると思われます。正負の数の利用でやや通過率がやや低いが、これは誤答から判断すると加法と乗法の問題文の読み間違いが原因と思われます。

「図形」領域の通過率は93.9%で、回転体に関する問題で、他の問題と比べるとやや通過率の低い問題も見られました。実物を使って、立体的な見方を養っていかなければならないと思われます。

「関数」領域の通過率は92.1%で、基礎基本は理解できていると考えられます。ただ、比例より反比例での理解が難しい傾向があるので、問題演習を繰り返しながら、定着に力を注いでいきたいと思えます。

「資料の活用」領域の通過率は93.0%で、昨年度の課題であった相対度数についても理解ができていたようです。

【今後の取組】

- ・ 単元ごとに確認テストを実施し、基礎・基本が定着していない内容を重点的に演習していきます。
- ・ 継続的なドリル学習を行い、計算技能の定着を目指していきます。
- ・ 基礎・基本の定着にとどまることなく、筋道を立てて課題を考えていく力、自分の考えを分かりやすく表現していく力などの育成を図っていきます。
- ・ 図形の学習では、モデルを用いるなどして、視覚的に図形をとらえることができるよう に授業を工夫していきます。

英 語

【分析】

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」のすべての領域90%以上の通過率でした。広島県の平均通過率と比較しても「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」の3領域では20%以上、広島県の平均通過率が高い「話すこと」の領域についても10%以上の高い通過率でした。

特に「読むこと」の領域は、平均通過率が100%でした。その中でも「内容を考えた音読」の問題では、100%の正答でした。また「聞くこと」の領域の「英語での問いかけに対する適切な応答」の問題でも、平均通過率が100%でした。授業の中で、イントネーション、抑揚、強弱などを徹底的に意識させての本文の音読、本文の概要を考えながら本文を全文暗誦する取り組みを入学時より重視し継続的に行っていることが、「内容を考えた音読」の正答率100%に、また、本文の単元ごとに、個別に英問英答の点検活動を行うことにより、「英語での問いかけに対する適切な応答」の正答率100%に繋がっていると思われます。これらの取り組みによる成果が身につけてきているように感じております。

一方、「読むこと」の領域の「適切な語を用いた会話文の組立」では、他と比較すると低い通過率でした。疑問文において主語を見きわめ、瞬時に動詞を正しく運用する力が若干身につけていないと考えられます。

【今後の取組】

次のような取組を通して、全技能の能力を更に高めていきます。

- ・ 「聞くこと」では、リスニング問題での概要や要点の把握に課題があります。授業の中で少し長い文を聴くことを継続的に取り入れます。また、内容把握にとどまらず、文法的な観点からも理解できるように訓練していきます。
- ・ 「話すこと」では、学校設定教科のコミュニケーション英語の時間を中心に、ALTと個別の英問英答をする機会を更に増やします。
- ・ 「書くこと」では、毎週実施している単語・英文テストを継続します。同時に、スピーチの原稿づくりや英文日記の課題も増やし、文を書くことに抵抗をなくしていきます。
- ・ 「読むこと」では、つまずきの見られた疑問文全般と、動詞の変化形について、運用演習をくり返し、応用問題にも取り組みます。